



妙高アパミュージアムには、「あの社長」の帽子が幻想的に展示されていた

(筆者撮影)

7月18日には、妙高高原リゾートの「妙高パインバレー」に新しくできた「妙高アパミュージアム」という博物館のプレオープン・セレモニーがあった。「アパ」というのは、ホテルやマンションで急成長している、あのアパグループだ。その元谷外志雄代表のグループ創業からの歴史を紹介するミュージアムだ。元谷代表とは以前、お互いの本社が近隣（東京・西麻布）だったことで親しくなった。招待状をもらった時、私の名前はイタルなので、冗談で「僕もイタルミュージアムをつくらうかな」とつぶやいた。「究極のジョーク」で、

### 子育て法も独特

トの「妙高アパミュージアム」に新しくできた「妙高アパミュージアム」という博物館のプレオープン・セレモニーがあった。「アパ」というのは、ホテルやマンションで急成長している、あのアパグループだ。その元谷外志雄代表のグループ創業からの歴史を紹介するミュージアムだ。元谷代表とは以前、お互いの本社が近隣（東京・西麻布）だったことで親しくなった。招待状をもらった時、私の名前はイタルなので、冗談で「僕もイタルミュージアムをつくらうかな」とつぶやいた。「究極のジョーク」で、

う人もいるだろうが、それはまったく違う。空売りで儲かったお金で復興支援をするのだ。

また、社会安全学部がある関西大学ミュージアムパスは、それ以外にも特徴がある。なんと、小学校から中学・高校・大学まで同じ建物に入っているのだ。そういう例は、私が知る限りでは日本唯一。小学校も今年4月に開校した新しい学校だ。私は小学校受験のための幼児教室も経営しているので、「新設の私立小学校」と聞くとじっとしてられない。社会安全学部の先生にお願いして小学校の見学もさせていただいた。

関西大学初等部はよく研究してつくられた小学校だ。社会安全学部と一緒ということもあるのだが、例えば、玄関の靴箱からして違う。普通の小学校では、グレーのスチールの小さなロッカータイプか、あるいは、昔ながらの枡状の木の靴箱というのが相場だ。しかし、関西大学初等部では見通しが確保できる靴箱になっている。厳密に言えば、靴「箱」ではなく、靴置き棚というべきだろう。不審者の隠れるスペースを排除するという危機管理の一環ということだった。授業も見学したが、学校の先生方のクオリティも高かった。こういう学校に通える子供は幸せだと思う。

日本はまだ海外から見捨てられていない。高級葉巻のように本場に良いものについては「中国人よりも、まだ日本人の方が理解できる」と思われているようだ。東京・表参道にある大正時代の洋館を改装してできた会員制レストラン「ミュージアム1999 ロアラブッシュ」で、ドミニカ共和国産の葉巻「ラ・オローラ」の日本販売開始のお披露目パーティーがあった。私は「禁煙」して18年だが、「禁煙」の定義は独自で「葉巻はOK。海外でのタバコの喫煙もOK」としている。ただ、タバコは海外でも、吸ったことは一度しかない。懲りたからだ。禁煙後しばらくしての海外出張中に、しつこく勧められたので「海外だからいいか」と吸ったが、まず味が

楽しめず、翌朝は喉が痛くて苦しんだ。タバコは紙も燃えるので、化学物質を吸ってしまったのだらう。その点、葉巻は化学物質がほとんどないから安心だ。とりわけ、今回のラ・オローラはドミニカ共和国で最も古い葉巻だが、テイストが軽い。葉巻初心者にはうってつけ。翌朝に喉に痛みどころか、違和感もまったくゼロで驚いた。

日本のリスクマネジメントの権威、亀井利

### 東海地震が起こったら空売りを

自分自慢の自己顕示的なものかと思って訪問したのだが、まったく違った。自分の考えの浅さを思い知らされた。そもそもこのミュージアムは、天才ビジネスマンの企画なのだ。そこに、商売の天才の妥協しない商魂を見た。何がその「妥協しない商魂」なのかは、読者に実際に足を運んで考えてほしい。私は、ただ唸るしかなかった。

元谷夫人の美英子・アパホテル社長は、帽子と「私が社長です」のCMで有名なが、アパグループの実権は100%、元谷代表にある。2世でも、学歴がすごいわけでもない元谷代表に、成功の秘訣を聞いたことがある。新聞社が聞くと泣いて喜ぶだろうが、「新聞だ」という答えだった。「小学生の頃から新聞をいくつも読み比べている。とりあげている項目が同じでも、記事の大きさが違うし、もちろん見方も違う。読み比べることで、価値観の違いがあることを学んだ。冷静に物事を判断する基礎を養った」と言っていた。

また、元谷代表の長男で、専務の一志さんからは、独特なアパ流子育て法を聞いた。「父親から勉強しろと言われたことはなかった。小学生の頃に、売地があると、『宿題なんかやってないで、一緒に行くぞ』と車で連れて行かれ、『この土地をどう思う?』と聞かれた。子供の頃から不動産業を叩き込まれた。大学を選ぶときに相談したら、『大学はどこでもいいし、行かなくてもいい。ただ、行くなら都心の大学に行け。これからは情報がすべてだ。郊外にある大学はダメだ』と言われた」ということだった。すべてが独特だ。「人の行く裏に道あり、花の山」。

国際金融コンサルタント

## 石井至の金融放浪記

第12回

## 「アパグループ代表」の独自の経営哲学

いい・いたる 1965年北海道生まれ。東京大学医学部卒業、同医学系研究科修士課程修了後、外資系金融機関に転じ、デリバティブ開発の第一人者として活躍、日本人最年少(当時)の28歳でマネージングディレクターに就任。97年、石井兄弟社を設立し、独立。世界各地で金融コンサルティング業務を展開する傍ら、東京・原宿でお受験教室「アンテナ・プレスクール」を主宰。出版業にも進出し、4月に旅行ガイド第2弾『シワ消える! コモ・シャンバラ〜日本人のあまり行かない世界のセブ・リゾート2〜』を自社出版。

明先生の特別講演会があるというので、大阪府高槻市に新しくできた関西大学ミュージアムパスを訪れた。私が生まれる4年前に(つまり、1961年に)、「リスクマネジメント」という概念を日本に紹介したこの分野の第一人者だ。亀井先生は御年80歳だが、話の面白さは抜群だった。

会場となった関西大学社会安全学部は今年4月にできたばかりの新しい学部だ。自然災害と事故をどう防止するか、被害をどう最小化するかを研究する学部である。講演後の懇親会で、学部長の河田先生とお話をした。河田先生は日本の防災の権威で、京都大学で長年研究をしてきた人だ。酔っ払っていたので記憶が定かではないが、河田先生のお話は、政府は東海地震(静岡県中西部を震源域とする巨大地震。マグニチュード8程度)が今後30年以内に発生する確率は87%と予測している。過去の歴史をひもとくと、東海地震が起こると、数週間後に富士山が噴火する。富士山が噴火すると、東京には火山灰が降るが、同時に細かい粉塵が空気中に拡散する。現代社会では、空気中の細かい粉塵が最悪で、コンピュータはほとんどダウンする。停電もするだろう。すべての都市機能は停止するかもしれない」ということだったと記憶する。

読者は、東海地震が起こったら株をショート(空売り)すべきだ。それは地震の被災地だけの問題でなく、日本の経済がしばらく停止することを意味するからだ。ただ、空売りの証拠も消えてしまいかもしれないので、取引履歴はプリントアウトしておくべきだろう。「地震で空売り」というと不謹慎だと言